

「現在の福祉制度の基本を創造した小河博士」



小河滋次郎博士顕彰会 副会長

市村 光志様

この日本は素晴らしい国です。特に老人を始め経済的、身体的に負担を強いられている国民に、細かく、丁寧に支援をしてくれる国は世界を見ても多くありません。その福祉制度の基本を創造したのは、上田出身の小河滋次郎（おがわ しげじろう）博士です。本日はその小河博士をご紹介します。

本題に入る前に“福祉制度の基本”について、ご説明させていただきます。

基本精神: すべての人が自立できるように支援する。
具体的には、民生児童委員による現状調査と、行政の福祉部と社会福祉協議会による具体的な支援です。

博士の生い立ち: 1863年、馬場町医師の金子家に生まれます。後に小河家の養子となり小河滋次郎となりました。母親を6歳で亡くし、患者が日々訪れている家で育った博士は、常に弱い立場の人に心を寄せていました。
博士の前半生: 東京に出て学び、内務省の役人になります。監獄行政官です。今ではなじみのない仕事ですが、当時は大変重要な仕事です。明治維新直前、この国は外国との条約交渉で不平等条約を結ばされます。その主な理由は監獄のひどさです。外国人が日本に来て罪をおかしたとします。それを裁くのは江戸時代そのままの牢獄、加えて弁護人もない司法制度。こんな野蛮な国とともに条約は結べないという事で不平等条約となります。この解決をまかされたのが小河博士です。明治32年7月ついに博士の努力が実り、監獄則が改正され不平等条約は解消されます。

博士の後半生: 大正2年、博士は大久保利武大阪府知事からの声掛けで大阪に行きます。大阪の惨状（行き倒れが年1万人も出ている状況）を憂いて、知事は根本的な対策を打ちたいと博士に頼みます。博士は直ちに人材育成に取り掛かります。救済事業研究会です。救済事業関係者、学校、警察、宗教関係、新聞社等、社会の主だった仕事の責任者を集め、毎月勉強会を開きました。5年

間。ついにそこで学んだ人々が活躍する時が来ます。大正7年10月。方面委員制度が立ち上がります。林市蔵知事の決断です。林知事は小河博士に方面委員制度の設計と指導を依頼します。博士は“すべての人が自立できるようにする”の基本精神の元、具体的には、①社会測量（各家庭の状況を細かく丁寧に調べる）②貧困の予防（自立して生活する）の二本柱を設計し指導いたします。博士が指導教育した人々は約500人。方面委員として活躍します。各家庭を訪問し、問題点を把握し、その家の人々を諭し、その家に合った仕事を見つけて紹介し、自立できるまで支援したのが、方面委員の仕事でした。その土地の名士だからできたと思われま。今ではとても無理！方面委員の活躍で見事大阪の惨状は解決します。その結果、全国に方面委員制度が広がりました。

今では法律も整備されました。方面委員制度に代わり、①社会測量を担うのが民生児童委員。②貧困の予防を担うのが行政の福祉部と社会福祉協議会。そのお蔭で我々国民は安心して老後を迎え、心配がある人は相談窓口に行くことができ、平穏な暮らしができるようになっていきます。小河博士の思いは、現在も見事に受け継がれています。今後も今までにない形で弱い立場の人が出てくると思われまますが、時代に合わせて福祉関係の方々が、努力・工夫なされることを願っております。ご清聴ありがとうございました。



《胸像の設置》

1940年（昭和15年）に、上田市方面委員の代表者が全国から寄付を募り、上田城跡公園内の鬼門除けの位置にあたる「本丸土塁の隅おとし」近くに小河滋次郎博士の胸像を建設しました。現在も福祉のシンボルとして、その行方を静かに見守っています。

（小河滋次郎博士顕彰会のしおりより）

- 司 会 手塚達也君
- 齊 唱 「我等の生業」
- ゲ ス ト 市村光志様(小河滋次郎博士顕彰会 副会長)
- ラッキー賞 倉島 博君(季節のアレンジ花)



■会長挨拶 山寺 高太郎 会長



「ロータリーの友」8月号に、国際政治学者である高橋和夫氏の『トランプとアメリカ・ファースト』についての、とても興味深い寄稿記事が載っていました。なるほどと思ひながら読みました。

さて、世界一の権力者であってアメリカのトップセールスマンたるトランプ氏と日本の赤沢大臣が、7月22日に自動車に関して15%の関税で合意しました。しかし、2.5%の関税から6倍の15%で合意したのに、なぜか米国大統領令に自動車関税が明記されていませんでした。そこでちょっと調べてみました。

2024年の日本の主要自動車メーカーのアメリカへの輸出台数と特長ですが、トヨタ：約530千台、ホンダ：5.4千台、日産：190千台、スバル：300千台、マツダ：280千台、三菱：109千台で、トヨタは、主としてレクサスやランドクルーザーなどの高価格帯商品、ホンダは、ほぼ米国内生産で間に合う、日産、スバルは、米国販売数の半数を日本からで、マツダは米国内販売の8割に相当し、三菱はほぼ全量が日本からの輸出となっている様です。

次に、2025年の米国内人気車種と価格帯です。

1位：フォードのピックアップトラック (36千米\$～80千米\$以下米\$)、2位：シボレーピックアップトラック (35千\$～75千\$)、3位：RAM ピックアップ (38千\$～85千\$)、4位：トヨタSUV (29千\$～40千\$)、5位：テスラ電動SUV (44千\$～55千\$)、6位：ホンダCRV (30千\$～38千\$)、さらに、9位に日産のSUV (29千\$～37千\$)が入っています。以下20位以内にトヨタ、ホンダ、日産、スバル等々が入っています。

ここで、気になることは、日本車と米国車の最もグレードの低い車種の価格を比較すると、軒並み米国車が20%以上高いことです。

ここからは私の想像ですが、MAGAの専属セールスマンのトランプ氏は、ここに注目したのかもしれませんが。

だからいつまでたっても自動車関税を下げられないのかもしれませんが。但し、日本としては、自動車の裾野の広い関連業界に対する衝撃を緩和しつつ乗り切るとなると、あくまで仮定として\$/円相場を円安にすればほとんど呑み込め、輸出台数を確保すれば良いこととなります。日銀や政府は国民生活をどう考えているのでしょうか？我々末端の経済人として、かつ影響を受ける国民の一人としても気になるところです。

しかし、自動車は価格だけでないことは世界中の人が知っているのも、各メーカーや関連企業の方々には頑張ってもらいたいと思っています。

■幹事報告 倉島 博 幹事

- ・中信第二グループより地区大会のご案内が届く。
1日目/11月15日(土) ホテルブエナビスタ
会長・幹事、地区役員
- 2日目/11月16日(日) キッセイ文化ホール
全会員対象 全員登録
- ・RLI (ロータリー リーダーシップ研究会) パートIのご案内が届く。 9月28日(日) 塩尻市
- ・ガバナー補佐より会長幹事親睦連絡会議のご案内が届く。
9月12日(金) 18:30～ 一貫茶屋
出席者：会長、幹事、飯島洋一地区RA支援委員長

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	52	47	22	—	53.19%
前々回	52	50	12	8	92.00%

ニコニコBOX (敬称略)

飯島(洋)、小田中、上條、工藤、倉島、神津、後藤、小林塩之入、関、竹花、玉井、塚田、手塚(達)、橋詰(洋)水出、蓑輪、母袋(卓)、柳澤亨、山寺、渡辺

※山寺高太郎君/市村様ようこそ！本日よろしくお願ひします。暑い日々です。皆様、体調にお気をつけ下さい。

※工藤 恒君/市村様、ようこそお越しくださいました。

※神津 健君/市村さん上田東ロータリーへようこそ！小河博士の話、楽しみにしています。

※手塚達也君/初司会です。皆さん宜しくお願ひします。※渡辺敏成君/ガバナー選出会議に行ってきました。五里霧中で先がみえません。

※竹花 強君/誕生日祝い、ありがとうございます。

※小田中讓君/お盆になると菅平から、合宿中のラグビー選手が「歯が痛い」と突然来院します。今年も早稲田、東洋、東海…。ラグビーの話で治療は二の次！

※母袋卓郎君/エアコンが生命維持装置になっています。本日の金額/29,000円 累計/275,000円